



## 東海村の村長さんが脱原発を宣言

東海村では

日本で初めて原子炉が作られた東海村。そこには沢山の原子力の研究機関があり、日本で初めての原発（今は運用終了し解体中）も作られた。原子力には理解がある筈の東海村の村長、村上達也氏は「脱原発宣言」を發した。どうしてか？

紙くずのように

村上村長は九月十日のNHKで「今の政府は福島原発の後始末ができていない」「これまでの村民避難訓練は村内と近隣市との関係のみ」（近隣数十万の避難は想定していない）「もし、東海村で同じ事があれば紙くずのように捨てられる」と發言。

東海第二原発では

この東海村には、東海第二原発があり、3・11の時は稼働中であつた。緊急停止はしたものの、非常用発電機の一は冷却水ポンプが津波に水没して停止。幸い、他の二台の発電機のポンプは僅かに水没を免れて、福島原発のような事態は避けられた。でも、もし、

津波が四十センチ高かつたら全ての非常用発電機が止まり、福島と同じになるところであつた。

「子どもの国 白鳥湖



残暑の九月半ば、写生会で子どもの国へ行った。面積三十万坪（約一平方キロメートル）と云う広大な敷地の多摩丘陵。その雑木林は早くも一部紅葉が始まっていた。

金曜日なのでさすがに人は少ない。小さい子を連れた家族連れが白鳥湖でボートを楽しんでいた。オールを握って、絵の左の橋をくぐって進むと、島を回って、右の橋の所から出てくる。お父さんは熱い日差しに汗びっしょり。お母さんは子供に日傘を差しかけ熱射病対策。

手こぎボートの後から、足こぎボートが右の橋をくぐってきた。お子さんがハンドルを握っているのか、右に行ったり、左に行ったり・・・。